

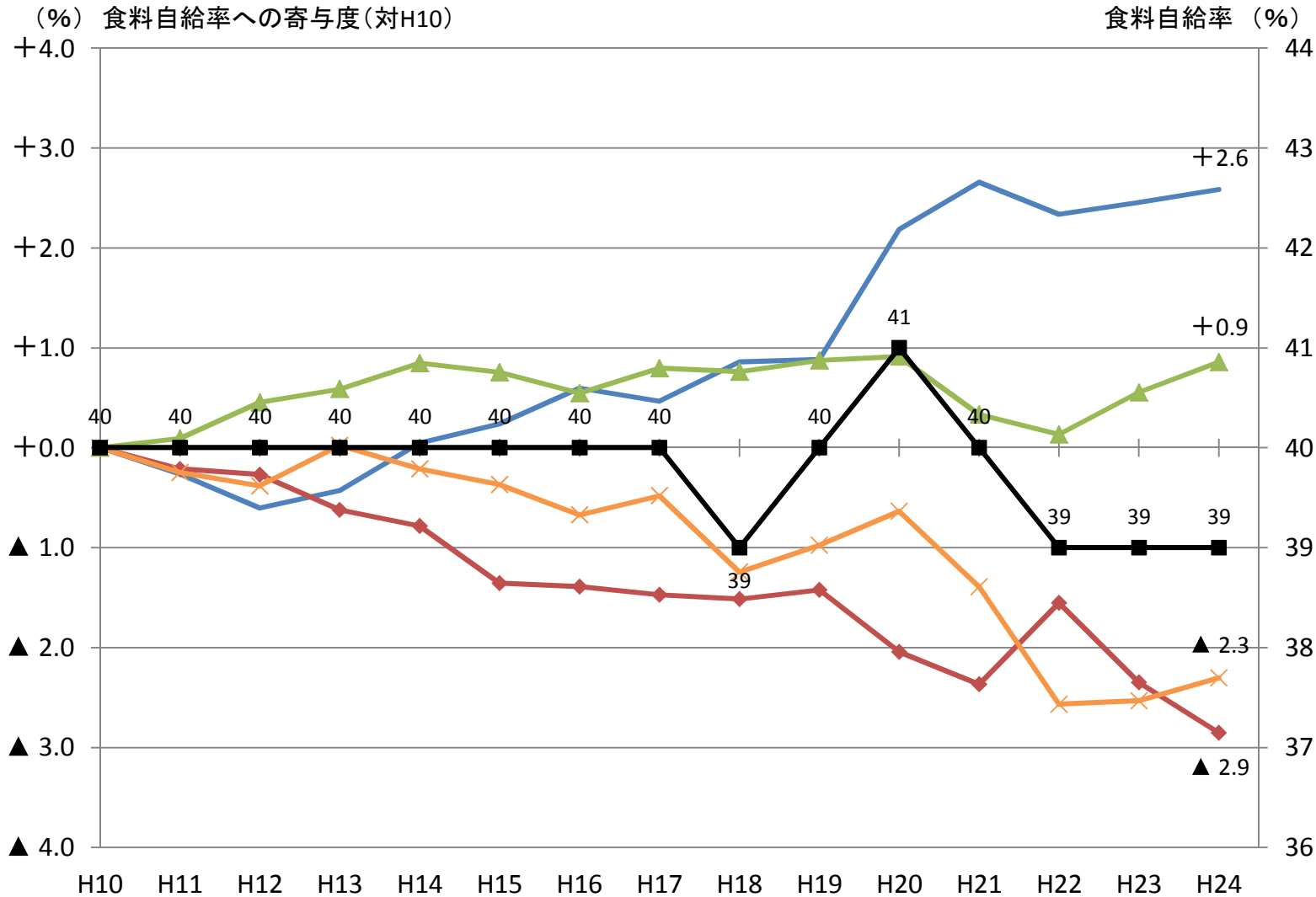
カロリーベースの食料自給率の近年における変動要因

○ 1人1日当たり供給熱量の減少や、カロリーベースの食料自給率向上のために戦略作物として位置づけた小麦、大豆、新規需要米の生産量増加等の向上要因がある一方、米の生産量減少や天候不順等による甘味資源作物等の不作等の低下要因により、食料自給率は40%前後で推移している状況。

カロリーベース 総合食料自給率の計算式

生命・健康の維持にはカロリーが不可欠であることから、供給カロリーが国内生産でどの程度まかなわれているのかを示す指標

$$\frac{\text{1人1日当たり国産供給熱量 (942kcal)}}{\text{1人1日当たり供給熱量 (2,430kcal)}} = 39\% \text{ (H24)}$$



分母への影響
1人1日当たり供給熱量の減少による向上効果
2,603kcal(H10) → 2,430kcal(H24)

小麦、大豆、新規需要米による向上効果
小麦 57万t(H10) → 86万t(H24)
大豆 16万t(H10) → 24万t(H24)
米粉用米 0.1万t(H20) → 3.3万t(H24)

分子への影響
米による低下効果
(参考)米の生産量の変化
896万t(H10) → 869万t(H24)

その他の品目による低下効果

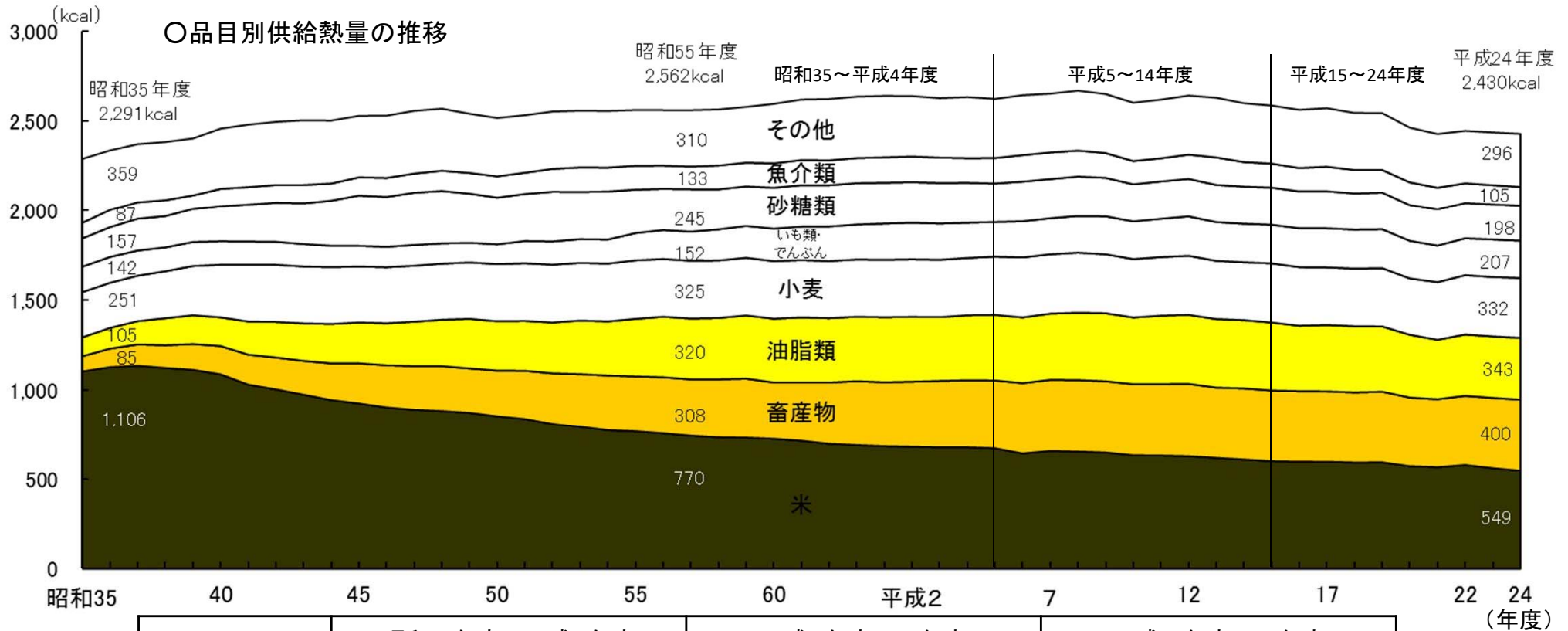
■ カロリーベース食料自給率

資料:農林水産省「食料需給表」等

今後の食料消費の動向

食料消費の動向について

- 1人・1日当たりの総供給熱量については、基本的に増加基調の中で、品目別に見ると米の消費が減少する一方、肉類や油脂類の消費が増加してきた状況。
- しかしながら、直近の10年間に於いては、総供給熱量が減少していく中で、すべての品目で供給熱量が減少。



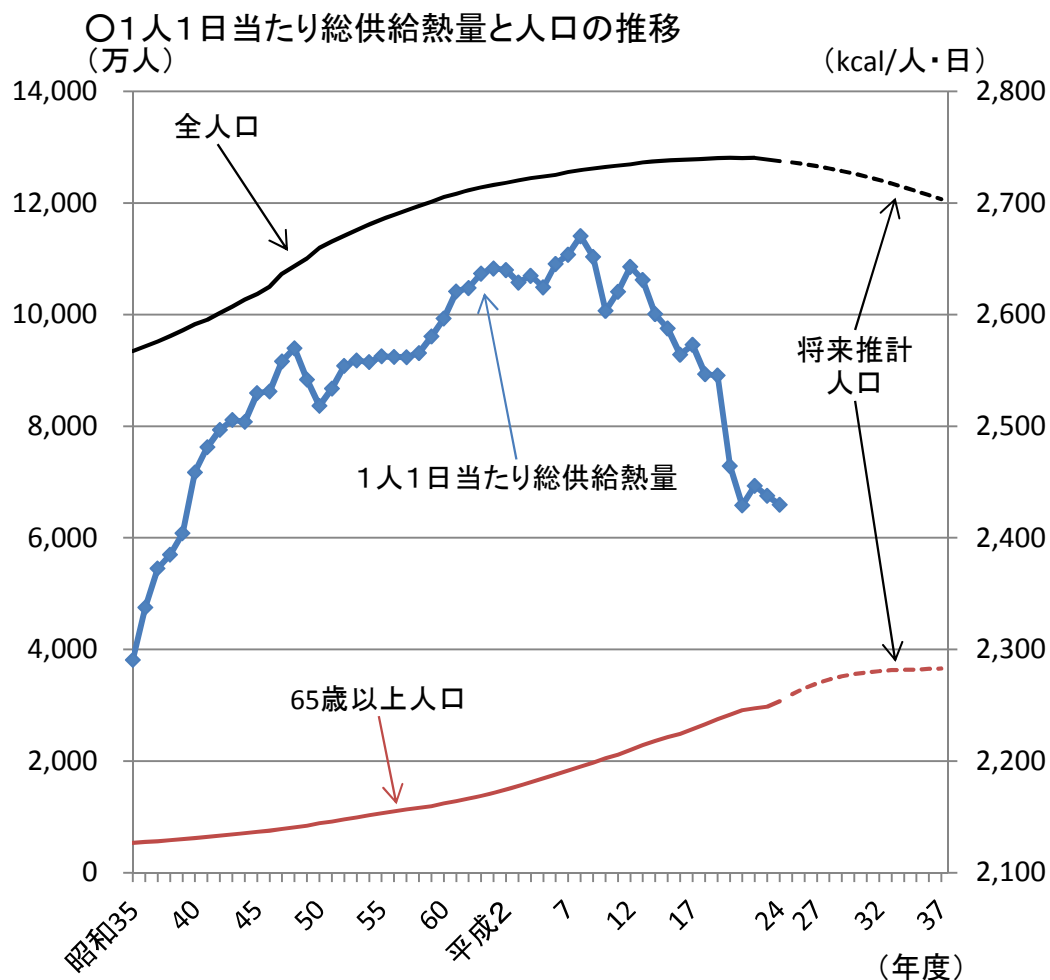
	昭和35年度～平成4年度	平成5年度～14年度	平成15年度～24年度
総供給熱量	2,291kcal → 2,635kcal	2,625kcal → 2,600kcal	2,588kcal → 2,430kcal

(構成比の変化)

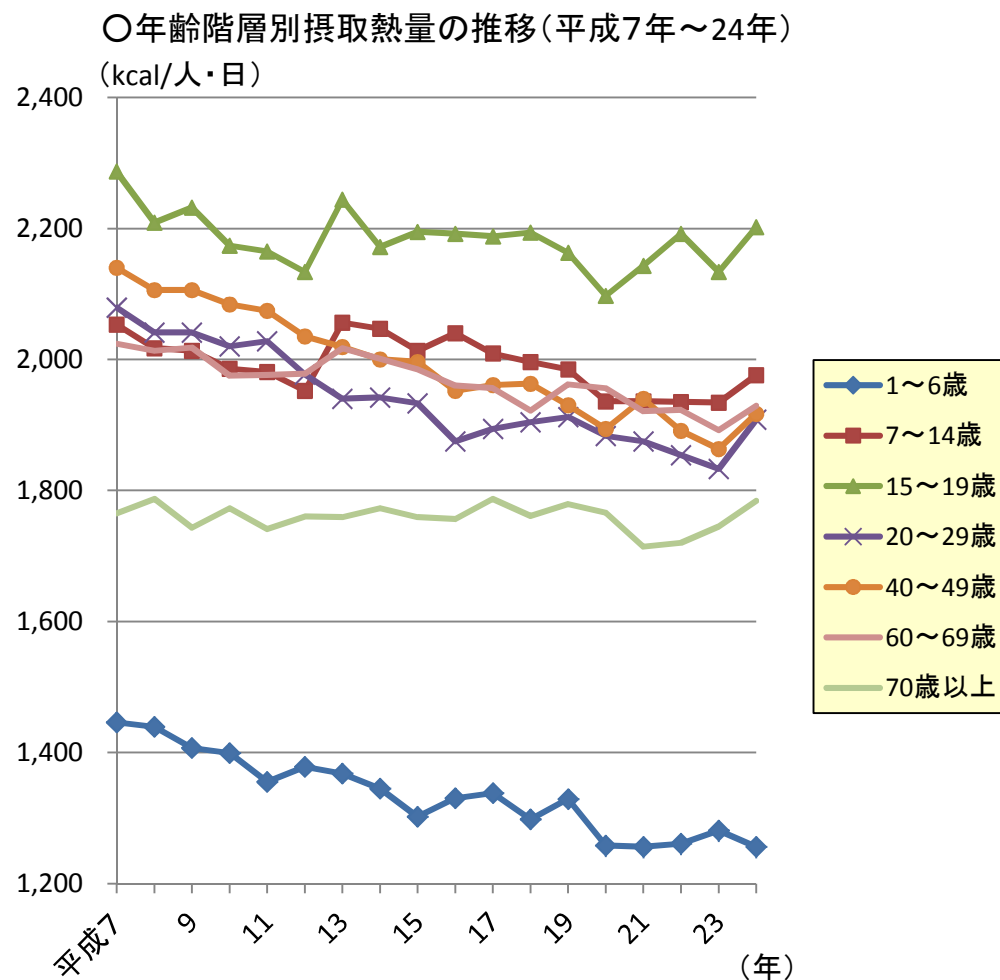
米	48.3% → 25.8%	25.7% → 23.5%	23.3% → 22.6%
油脂類	4.6% → 13.7%	13.9% → 14.6%	14.6% → 14.1%

今後の食料消費の動向に与える要因①（人口の減少と高齢化）

- 今後の食料消費の動向については、人口とその年齢構成が影響。
- 実際に、直近の10年間に於いて1人1日当たり総供給熱量の減少が続いているのは、他の年齢層と比較して摂取熱量が少ない高齢者層の増加が一つの要因。
- 今後、人口の減少や高齢化が進展すると予測されていることから、1人1日当たり総供給熱量も減少していくと予想される



資料: 農林水産省「食料需給表」、総務省「人口推計」、
国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口」(出生中位・死亡中位)



資料: 厚生労働省「国民健康・栄養調査」